

## 2019 年度課題研究会活動成果報告書

課題研究会名：歯科医療情報における交換・連携に関する研究会

設置期間：2019 年 4 月から 2022 年 3 月

代表幹事の氏名・所属：玉川 裕夫・前大阪大学歯学部附属病院

幹事の氏名・所属：森本 徳明・矯正歯科森本  
佐々木好幸・東京医科歯科大学  
齊藤 孝親・日本大学松戸歯学部  
鈴木 一郎・新潟大学医歯学総合病院  
永松 浩・九州歯科大学

### 活動成果の概要：

本課題研究会では、歯科領域の標準化の取組みを中心とした活動を継続しており、厚生労働省で検討中の「口腔診査情報標準コード」（資料 1\_口腔診査情報標準コード\_Ver101）の策定に貢献してきた。同コード仕様は、2019 年 12 月 19 日に HELICS 協議会の審査を通過（HS034）し、事実上の厚生労働省標準規格となっており、後は事務手続きとその後の省令発出を残すのみとなった。以下、本課題研究会が関与した学会等での発表内容、厚生労働省実証事業ならびに MEDIS-DC における標準化作業について概説する。

#### 1) 第 39 回医療情報学連合大会

2019 年 11 月 22 日の第 39 回医療情報学連合大会（幕張メッセ（千葉市））では、公募シンポジウム 1「歯科における医療連携と医療情報の利活用」を開催した。オーガナイザーは本課題研究会の森本徳明が務め、演題名、演者ならびに内容は、添付資料（資料 2\_JCMI39th シンポジウム）のとおりである。

このシンポジウムでは、学会関係者だけでなく厚生労働省ならびに日本歯科医師会の演者も参加・講演しており、歯科の医療情報利活用に関して重要な情報交換の場となっていることがあらためて確認された。

## 2) 大学病院情報マネジメント部門連絡会議

2020年1月30日に秋田で開催された大学病院情報マネジメント部門連絡会議の歯科セッションは、標準化の動向を踏まえ、院内や地域の医科歯科連携における歯科情報の利活用について現状報告するとの主旨で開催された。オーガナイザーは本課題研究会の鈴木一郎が務め、演題名、演者ならびに内容は、添付資料（資料3\_歯科セッション抄録）のとおりである。

この協議会では、大会長の島田洋一先生（秋田大学医学部附属病院医療情報部長、整形外科教授）から、医科・歯科の地域医療連携において、骨粗鬆症患者に関する情報共有の重要性が指摘された。

## 3) 厚生労働省実証事業

2019年度の厚生労働省実証事業の名称は、「歯科情報の新たな利活用にかかる実証事業等」で、株式会社NTT データが受託している。背景には、犯罪や災害で死亡した人の死因特定に向けた体制を強化することを目的として、2019年6月6日に死因究明推進法が衆議院本会議で可決・成立したことがあり、本実証事業では、口腔診査情報コードの標準化作業を一步進めて、生前データとして歯科診療情報を収集した場合の現実的な課題とその解決策を検討した。

すなわち、歯科診療や歯科健診で得られた口腔内状態を「口腔診査情報標準コード仕様」に準拠したデータとしてクラウドサーバ上に収集し、それらが災害時の身元確認においてどのように使えるかを検証すると同時に、実際に活用する際の課題の収集・分析を行うことが事業目的である。実証事業の観点から「口腔診査情報標準コード仕様」を広く認知してもらうための研修会が開催され、本研究会の構成員が講演した。研修会の講演者、講演内容は、添付資料の資料4\_歯科情報の標準化に関する研修会の参照先として整理した。

なお、この研修会は東京と大阪で予定されていたが、新型コロナウイルスの影響で東京（日本歯科医師会館）でのみ開催された。その時の講演内容は、資料4のURL（日本歯科医師会サイト）で動画として公開されている。

## 4) 標準歯科病名マスターと標準歯式コード仕様

本課題研究会のメンバーは、一般財団法人医療情報システム開発センター(MEDIS-DC)の歯科分野の標準化委員会の委員として、厚生労働省規格となっている標準歯科病名マスター(HS013)と標準歯式コード仕様(HS033)のメンテナンスに深く関与している。

資料 1. (口腔診査情報標準コード\_Ver.1.01)

<https://www.jda.or.jp/jda/business/pdf/Oral-examination-Information-Standard-Code.pdf>

資料 2. (第 39 回医療情報学連合大会共同企画詳細抄録)

資料 3. (令和元(2019)年度大学病院情報マネジメント部門連絡会議抄録)

資料 4. (歯科情報の標準化に関する研修会：令和元年度厚生労働省「歯科情報の新たな利活用に係る実証等」事業)

<https://www.jda.or.jp/dentist/program/business.html>

活動成果の発表：

[雑誌論文] 計 5 件

- ① 歯科医院での医療連携の現状と今後の展開－開業医の立場から－、森本徳明、(矯正歯科森本)、医療情報学、39(Suppl.)；77-79、2019.
- ② 総合病院における診療情報の施設間連携に関する現在の取り組みと今後の展望－東京大学医学部附属病院および各地域医療ネットワークにおける取り組み－、井田有亮(東京大学大学院医学研究系研究科経営のできる大学病院幹部養成プログラム)、医療情報学、39(Suppl.)；80-81、2019.
- ③ 歯科医療における連携と医療情報の利活用、堀 義明(厚生労働省医政局歯科保健課)、医療情報学、39(Suppl.)；82-83、2019.
- ④ 医療等分野の ICT を利活用した取り組みについて、宇佐美伸治(日本歯科医師会)、医療情報学、39(Suppl.)；84-85、2019.
- ⑤ 基幹病院 ⇄ 診療所間の医療情報連携の現実と理想、高柴正悟(岡山大学大学院医歯薬学総合研究科歯周病態学分野)、医療情報学、39(Suppl.)；86-87、2019.

[学会発表] 計 4 件

- ① 口腔診査情報標準化の現状と今後の展望、玉川裕夫(大阪大学歯学研究科)、令和元(2019)年度大学病院情報マネジメント部門連絡会議、2020、秋田.
- ② 大学附属病院における診療情報の解析による医療安全向上の取り組み、守下昌輝(九州歯科大学口腔機能学講座)他、令和元(2019)年度大学病院情報マネジメント部門連絡会議、2020、秋田.
- ③ 秋田大学医学部附属病院における医科歯科連携への取り組みと周術期口腔機能管理の実際、高野裕史(秋田大学医学部附属病院歯科口腔外科)他、令和元(2019)年度大学病院情報マネジメント部門連絡会議、2020、秋田.
- ④ 秋田県における医科歯科連携の取り組み、畠山桂郎(秋田県歯科医師会)、令和元(2019)年度大学病院情報マネジメント部門連絡会議、2020、秋田.

[その他] 計 1 件

- ① 口腔診査情報標準コード仕様 Ver.1.01、日本歯科医師会、平成 31(2019)年 3

月 28 日版.